

## 食料科学委員会畜産学分科会（第24期・第4回）議事録要旨

1. 日 時 平成30年12月28日（金）10:00～12:00
2. 場 所 日本学術会議5階5-A（1）会議室  
〒106-8555東京都港区六本木7-22-34
3. 出 席 眞鍋昇（二部会員）、吉澤緑、柏崎直巳、枝重圭祐、木村直子、  
小澤壯行、柁村恭子（連携会員）、  
欠 席 佐藤英明、東村博子、遠野雅徳（連携会員）、永井卓（特任連  
携会員）、足立吉数（物故）
4. 議事
  - （1）定足数の確認：7名が出席し、分科会は成立した。  
分科会開催に先立ち、平成30年10月に急逝された足立吉数委員への黙とうを行った。
  - （2）前回（第24期・第3回会議）の議事録要旨案の承認  
第24期第3回分科会の議事録要旨案を確認後、承認した。
  - （3）第24期活動報告について
    - ・ 獣医学分科会・食の安全分科会・畜産学分科会分科会と共催でアフリカ豚コレラに関する公開シンポジウム（平成30年12月28日開催、日本学術会議講堂）が開催された。畜産学からのアプローチとして、伝染病が流行しないように管理の方策について考えていく必要性を確認した。
  - （4）今後の第24期活動予定について
    - A. 公開講演会・シンポジウムの共催などについて
      - ・ 2019年度日本草地学会広島大会において、日本草地学会および畜産学分科会主催で公開シンポジウム「放牧・酪農による中山間地活性化の可能性を探る」（平成31年3月25日、広島大学）を予定していることが報告された。
      - ・ 2019年度日本畜産学会東京大会において、日本畜産学会主催、畜産学分科会および畜産学アカデミー共催で公開シンポジウム「スマート畜産：IoT・人工知能およびロボット技術の利活用」（平成31年3月28日、麻布大学）を予定していることが報告された。併せて本分科会を開催を検討する。
      - ・ 畜産学分科会主催で、公開シンポジウム「産業動物と食の観点からのOne

Health」(平成31年5月25日、日本学術会議)を予定していることが報告された。併せて本分科会の開催を検討する。

- ・畜産学分科会主催で、公開シンポジウム「(仮)和牛の地方特定品種の将来-農山村の活性化に向けて」(平成31年7月25日、高知大学農林海洋科学部)を予定していることが報告された。併せて本分科会の開催を検討する。
- ・畜産学分科会主催で、公開シンポジウム「静かに進行する食料危機：持続可能な畜産物生産のための科学と技術」(日程未定、日本学術会議)を予定していることが報告された。
- ・2019年度Fatty Pig 国際研究集会(平成31年11月27~29日、沖縄県男女共同参画センター)について、畜産学分科会および沖縄県との共催開催を検討していることが報告された。

#### B. 分科会の開催について

眞鍋委員長より、平成31年度3月、5月、7月開催の日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会主催の公開シンポジウムに前後して、本分科会の開催を検討する旨の提案がなされ、調整することとなった。

#### C. 学協会との連携について

畜産学会、草地学会、家禽学会、養豚学会などの畜産関連学会との公開講演会・シンポジウムの共催等を積極的に進めることで連携を図るとともに、今後一層連携を図るための方策を考えていくことを確認した。

#### D. 教科書(朝倉農学体系)の作成について

眞鍋委員長より、農学の基礎的・中心的科目について、基礎から最先端の内容を解説する教科書(出版元：朝倉書店)作りの進捗状況が報告され、各分野の執筆予定者による初稿の提出が年内に行われる予定である旨の説明があった。

#### E. 第24期学術の大型研究に関するマスタープラン(MP2010)の策定について

眞鍋委員長より、畜産学分科会からは前回提出していない状況で、来期以降の課題である旨の報告がなされた。

#### (5) 女性および若手研究者の一層の充実と活躍の推進について

- ・足立委員および木村委員が作成した当該学術領域の若手研究者の就業状況や意識調査などについて、資料の説明がなされ、各委員の認識や課題点などについて意見交換がなされ、今後も具体的方策について考えていくこと

を確認した。

(6) 日本畜産学アカデミーの活動について

日本畜産学アカデミーの活動の活性化や安定化について、意見交換を行った。

(7) その他

- ・「畜産学における動物のエチカの発信」の必要性について

現在の畜産学のアニマルウェルフェア領域のより一層の発展と浸透を目指して、その位置づけについて、畜産物への付加価値の手段、防疫、食文化や気候、宗教の違いを踏まえた管理など、多面的な視点で整理し、発信していく必要性などについて、意見交換がなされた。

- ・次回第5回分科会は、平成31年3月28日（2019年度日本畜産学会東京大会会期中、麻布大学）あたりでの開催を検討する。

配布資料：

日本学術会議畜産学分科会（第24期・第4回）議事次第

資料1：畜産学分科会第24期・第3回会議議事録要旨案

資料2：食料科学委員会（第24期・第4回）議事録要旨

資料3：公開シンポジウム「放牧・酪農による中山間地活性化の可能性を探る」のポスターおよび企画案

資料4：公開シンポジウム「スマート畜産：IoT・人工知能およびロボット技術の利活用」の企画案

資料5：公開シンポジウム「産業動物と食の観点からのOne Health」の企画案

資料6：公開シンポジウム「静かに進行する食料危機：持続可能な畜産物生産のための科学と技術」の企画案

資料7：2019年度Fatty Pig 国際研究集会のポスター

資料8：男女共同参画学協会連絡会実施の「第4回（2016年度）科学技術系専門職の男女共同参画実態調査アンケート」の内容および日本畜産学会若手会員のデータ抽出による分析結果

資料9：若手研究者の職種別就職状況

資料10：報告・大学教育の分野別質保証・大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準・農学分野

資料11：報告・農学分科会の報告・生産農学における学部教育のあり方

資料12：日本学術会議会長メッセージ「平成30年度審議関係予算の逼迫への対応」

机上配布：公開シンポジウム「（仮）和牛の地方特定品種の将来-農山村の活性化に向けて」の企画案

本委員会にあたっては、以下の職員が事務を担当した。

三神雅子参事官（審議第一担当）付審議専門職（平成30年5月から）

以上